



環境改善目標1

希少植物の生息域外保全 活動の意義と育成する“和の花”について

2025年度（新規扱い）

フタバアオイ フジバカマ
ヒオウギ キクタニギク
アヤメ ワレモコウ



活動の背景 希少になっていく野生植物

京都府レッドデータブック(RDB)の2022年改訂版レッドリスト(RL)が2023年2月に公表されました。植物の掲載種数は、改訂ごとに増えています。原因は様々ですが、多くの植物の自生地の環境が危機にあることを示します。

(表) 京都府RDB(RL)に掲載された種子植物の種数の推移

カテゴリー	2002年	2015年	2022年
絶滅種(※1)	62	45	46
絶滅寸前種	157	217	252
絶滅危惧種	142	222	236
準絶滅危惧種	142	180	176
要注目種(※2)	54	75	78
ノミネート種数	557	739	788
ノミネート割合(※3)	約23.7	約31.4	約33.5 (%)

※1……絶滅種数の2015年の減少は調査による自生地の発見があったため。

※2……外来種を除く要注目種の数

※3……ノミネート種数が府内の種子植物約2,350種に対する割合(2015年版「全国的に見て非常に高い数値」)

ありふれた……はずの植物が消えていく。例えば……

消える秋の七草（七種）

萩の花 尾花 葛花 瞿麦の花 女郎花 また藤袴 朝貌の花
——山上憶良（万葉集・巻八）



ハギ(マメ科、写真は
ナンテンハギ)



カワラナデシコ（ナデシコ科）
京都府RD記載ないが減少



フジバカマ（キク科）
京都府RDB:絶滅寸前種



ススキ(イネ科)



クズ(マメ科)



オミナエシ（スイカズラ科）
京都府RDB:準絶滅危惧種



キキョウ（キキョウ科）
京都府RDB:絶滅寸前種

希少植物保全の2つの方法について

希少な植物(生物)の保全には、2通りの方法があります。基本的には、生態系の中での保全＝**生息域内保全**が望ましいのですが、自生地の環境が大きく変化する中での緊急的な措置として、また、生息域内保全に至るまでの手段として、**生息域外保全**はますます重要となっています。

生息域内保全 (自生地の生態系の中での保全)

(例) 里地・里山の管理と利用、獣害対策(シカによる食害は京都では特に深刻)、外来種(国外・国内)の駆除、水質保全……

生息域外保全 (自生地ではない場所での保全)

(例) 系統保存(交雑を避けながら長く栽培・保存)、種子・胞子保存、園芸的な保存(植物に親しむ生活文化を背景にした園芸家等による栽培)、バイオ技術による培養……

※市街地では、容器栽培での育成も有効。繁殖技術の継承も大切。

国際自然保護連合 **生息域外**管理は、**生息域内**管理を補完するツールとなり 非常に重要な役割を担う可能性がある。

ローカルという
視点でみる

生息域外保全の重要性と留意点

国（環境省）レベルの対策

「種の保存法」を改正(2017)。指定種の生息域外保全支援等の事業を強化。このうち植物種は122種を指定。

◆環境省と(公社)日本植物園協会の協定（2017年～）

生息域外保全の実施状況に関する情報の共有、種子保存、繁殖技術等の確立、自生地情報・遺伝情報の整備、野生復帰の研究等について植物園のネットワークを通じて連携・協力（「希少野生植物の生息域外保全検討実施業務」）

各都市(自治体)レベルで見ると……

ローカルなレベルで絶滅の危険度が高い種が、国レベル(種の保存法指定種)の数よりも多く存在します。特に「秋の七草」のように、身近にありふれていたのに近年急速に失われているローカルな絶滅危惧種を掬(すく)い上げることが重要です。京都では歴史文化的な背景から、その重要性に気付く関係者が多いといえます。

留意点 ある植物について、現在も自生地があるにも関わらず、「同じ種だから」という理由で他の地域から持ち込むと、その自生地の植物群落の遺伝的固有性(多様性)を脅かすことになりかねません。「生息域外」に持ち込んだ植物が、場合によっては「外来種」(国内外来種)ともなりうることに注意する必要があります。 ⇒「逸出」を防ぎ、第三者への譲渡は抑制的に

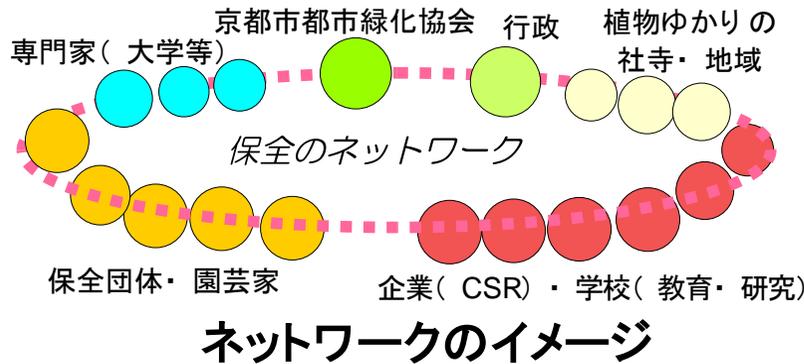
※3月1日付提供【別紙2-1】もご参照ください。

ネットワークで行う意義について

～危険分散・まちに広げる・関心を高める～

- ◆ 身近(都市部)で行う栽培……危険分散、レフュジア(避難地)となる

管理のしっかりした企業・団体、市民団体、専門家、行政などが協力しあうことによる保全と危険分散自体が大きな意義を持っています。



- ◆ 社内・社外での広報……都市住民である私たちが、都市と生物多様性の関係について関心を高め、また周囲に知識を広める役割を担う。
- ◆ この取組みが、自社、地域の緑化や都市の外での活動のきっかけにつながる。

希少植物保全の活動
(緑化協会の例)



京都新聞 2013年10月28日



2025年度に取り扱う植物(6種) フタバアオイ、フジバカマ、ヒオウギ、キクタニギク、アヤメ、ワレモコウについて

配布資料(3月1日)【別紙1-2】植物栽培方法等の比較表

種名 (科名)	レッドデータブック の掲載ランク	花期	自生地の環境	栽培環境・方法 (容器栽培として)		更新・繁殖の方法 【交雑しやすい植物は実生(注1)を推奨しない】	育てやすさ(注2) 5(易)~1(難)
				日照	水やりの注意		
A フタバアオイ (ウマノスズクサ科)	-	3~5月	落葉樹林の下、 谷間の法面	春先は明るい場所、5月は 半日陰、6~9月は日陰 に。	水はけの良い土で、ムレ ないように。5月~9月は 乾燥に注意する。	株分け、実生	3
B フジバカマ (キク科)	環境省準絶滅危惧 (NT) 京都府絶滅寸前種	(1年目)9 月下旬~ 10月	川の堤防、水田 周辺などの明 るい水辺	日当たり好む。盛夏の西日 は苦手。	盛夏は受け皿で腰水灌水 し、1日2回(どうしても 不可能な日は日陰に置 く)	挿し芽、株分け (親株の3年目以降 は更新を推奨)	4
C ヒオウギ (アヤメ科)	京都府準絶滅寸前種	7月中旬~ 9月	海岸の草地、海 岸林、山の草地	日当たり好む。	乾燥には強いが、花期 前・盛夏は日射と乾燥に よる葉焼けに注意。	株分け、実生	5
D キクタニギク (キク科)	環境省準絶滅危惧 (NT) 京都府絶滅危惧種	11月~12 月上旬	河川の乾いた 法面、山麓の土 手	日当たり好むが、盛夏の日 射は苦手。短日植物なの で、夜間照明の近くに置く と開花が遅れる。	乾燥にはやや強いが、盛 夏の乾燥には注意	挿し芽、株分け (親株の3年目以降 は更新を推奨)	4
G アヤメ (アヤメ科)	京都府絶滅危惧種	5月	山地のやや乾 いた草原	日当たり好む	乾燥にはやや強いが、盛 夏は乾燥に注意	株分け(1~2年に 1度の植替え時)	4
H ワレモコウ (バラ科)	-	7月 ~10月	日当りのよい 丘陵の湿性地 など里草地	日当たり好む、盛夏の西日 は苦手	乾燥にはあまり強くない。 夏は特に注意する。	株分け、実生	3

※比較的育てやすい植物種が多いですが、近年、春から秋まで高温傾向、降雨日数の減少傾向が続くこともあり、油断はできません。それぞれの育て方について、詳しくは、栽培セットをお渡しする際や、当協会の「花と緑の相談所」、もしくは担当者が随時、ご相談に応じます。(本資料最終ページをご覧ください。)

植物1 フタバアオイ (ウマノスズクサ科 多年草)



Asarum caulescens
ウマノスズクサ科 多年草
京都府RDB 記載なし
花期 3～5月。

日本固有種。本州、四国、九州に分布しますが、7つの県では絶滅危惧・準絶滅危惧種となっています。

- ・上賀茂神社・下鴨神社、松尾大社の社紋
- ・葵祭(賀茂祭)で使用(1万数千本)。
全ての参列者の衣冠、御所車などに「葵桂」を挿した飾りを付ける。

※フタバアオイについての詳細は、
(一財)葵プロジェクト様の資料をご覧ください。



斎王代と女人列 (写真提供 上賀茂神社)



上賀茂神社での「葵里帰り式」の様子
(例年5月上旬)

植物2 フジバカマ (キク科 多年草)



学名 *Eupatorium japonicum*

秋の七種(七草)の一つで、『源氏物語』など文芸に
にたびたび登場する。水辺を好みますが、現在、自
生地はごく限られます。

葉には独特の芳香(クマリン)があり、香料や薬用
にされ、古代から貴族の男女が衣服や髪にしのばせ
ていました。海外との渡りをする蝶アサギマダラが
蜜を好むことでも知られます。

環境省レッドリスト:準絶滅危惧(NT)

京都府レッドリスト:絶滅寸前種

萩の花 尾花 葛花 瞿麦の花 女郎花 また藤袴 朝貌の花
——山上憶良 (万葉集・巻八)

トピック

同じ万葉集では、元号「令和」の出典「梅花の歌三十二首」の序(巻五)に
「蘭」(らん)という別名でも登場します。

「初春の令月にして、気淑(よ)く風和(やわら)ぎ、梅は鏡前の粉を披
(ひら)き、蘭は珮後(はいご)の香を薰(かお)らす」

「フジバカマ」の名を持つ植物が2種あることに注意

下の両者は「同じ種の別名」でなく「別種」です(村田源氏)。KESエコロジカルネットワークで保全するのは、絶滅の危険性が高い京都市産由来の自生種(左)です。

※詳細な見分け方は栽培セットとともにお渡しするテキストをご覧ください。



自生種

Eupatorium japonicum

水田や河川・湖沼の水辺
(草地)に自生

京都府RDB絶滅寸前種



栽培型(一般に流通)

Eupatorium fortunei

庭の植栽や切り花などに使われる。コバノフジバカマと呼ぶことが提唱されている。

フジバカマが結ぶネットワーク

藤袴と和の花展 2009年秋～

1998年に数十年ぶりに市内で見つかった株を藤井肇氏が域外保全。これを元に、KBS京都や緑化協会などが挿し芽、鉢植えで保全し毎年秋に展示してきました。KESエコロジカルネットワークの鉢も展示。



梅小路公園「朱雀の庭」



まちなかを彩る



藤袴祭（源氏藤袴会）

休耕田を利用した保全



嵯峨水尾



大原野(2024年まで)



嵐電沿線・立命館大学（衣笠C）

フジバカマに訪花する渡りの蝶 アサギマダラ



海外との渡りをすることで知られる蝶アサギマダラ(タテハチョウ科マダラチョウ亜科、*Parantica sita*)は大型で、羽に浅葱(あさぎ)色がかかっている美しい蝶です。

春から夏にかけては日本列島を南方から北上し、世代交代したあと、秋に北の地方から南下します。フジバカマには蜜の成分を使って性フェロモンをつくるために、特にオスが多くやってきます。

この渡りのルートを明らかにするため、国際的な協力でマーキング調査が行われていて、京都市からも台湾などへ渡った個体がいくつも確認されています。

写真(上)は、数日前に滋賀県で捕獲され、水尾(右京区)で見つかった個体。

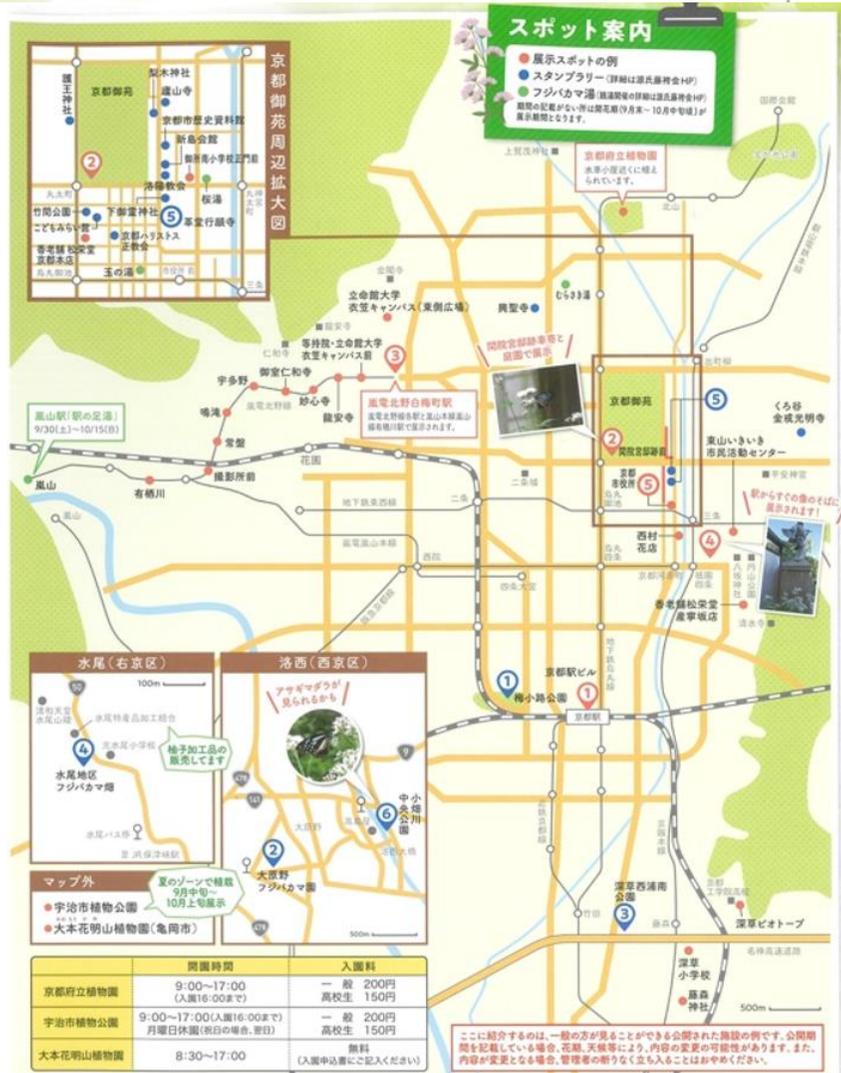
(撮影:秦賢二氏)



広がるフジバカマの輪

2023年
秋

フジバカマMAP



「藤袴と和の花展」(梅小路公園)では、KESエコロジカルネットワークの鉢の展示を行うほか、2024年には各地のフジバカマ保全団体との交流会(藤袴サミット)を開催しました。

『京のみどり』2023年秋号より

ネットワーク
企業・団体による
希少植物保全
KESエコロジカル
ネットワーク

企業・団体による希少植物保全ネットワーク

京都府の独自環境マネジメントシステム規格に取り組み、企業団体を審査・登録する特定非営利活動法人KES環境機構のKESエコロジカルネットワークは、フジバカマの保全活動が行われています。活動は生物多様性の確保を課題とし、京都府生物多様性プランが最初に策定された2014年プラン実現に貢献するためスタートしました。初年度は京都府駅ビル周辺の企業団体に絞って、京都の歴史文化に密着した関係がある希少な植物のフジバカマ(オウゴン)の鉢づくりからフジバカマ自生種に呼びかけ、危険分散のための栽培・生息域外保全を呼びかけると、2023年度までに252事業所に向けて栽培実践した結果、取り組みが約1,300の登録事業所に呼びかけられることになりました。

フジバカマ栽培に取り組む京都市周辺の企業団体の分布(赤い点)
【データ:京都市環境保全活動推進協会】

INFO

KESエコロジカルネットワーク構成団体...①(特許)KES環境機構、②(公財)京都市環境保全活動推進協会、③(公財)京都府環境保全活動推進協会、④(公財)京都府環境保全活動推進協会、⑤(公財)京都府環境保全活動推進協会、⑥(公財)京都府環境保全活動推進協会、⑦(公財)京都府環境保全活動推進協会、⑧(公財)京都府環境保全活動推進協会、⑨(公財)京都府環境保全活動推進協会、⑩(公財)京都府環境保全活動推進協会

- KES-環境マネジメントシステム「スタンダード」
https://www.keskyoto.org/
- KESエコロジカルネットワークFacebook
https://www.facebook.com/kesecologicalnetwork/

ネットワーク
企業・団体による
希少植物保全
KESエコロジカル
ネットワーク



2024年10月4日 藤袴保全団体交流会(藤袴サミット)

植物3 ヒオウギ

(アヤメ科 多年草)



学名 *Iris domestica*

日本のほか、台湾、朝鮮半島、中国大陸、インドなどにも広く分布します。

7月中旬ころから、祇園祭に合わせるように花茎がするすると伸び、赤い花を咲かせます。厄除け、魔除けとして街で飾られ、根茎は、風邪などに効く生薬「射干」(やかん)として重宝されました。名の由来は、葉の様子がヒノキ材の「檜扇」に似ているためとも、緋色から「緋扇」とも。

環境省RDB:記載なし

京都府RDB:絶滅寸前種(2022年版)

(府2015年版は準絶滅危惧種だったが2ランクも悪化)

トピック ダルマヒオウギ(右)

祇園祭の「屏風祭り」で一般に飾られるのは、正確には、ヒオウギの変種ダルマヒオウギ(宮津市産が有名)。花色、葉の形は様々で、草丈は低く屋内の飾りに適しています。



ヒオウギの種子 むばたま、うばたま、むばたま (射干玉、烏羽玉)

漆黒で、黒髪のように艶があることから、
黒、髪、夜、夢などにかかる枕詞に。



茶菓子のモチーフにも。



和名の由来とな
った檜扇の例
(飾り檜扇)

うばたまの 我が黒髪や かはるらむ
鏡のかけに 降れる白雪
—— 紀貫之 (古今和歌集四六〇)
※かみやかは (紙屋川) が読み込まれている。

ぬばたまの 夜の更けぬれば 久木生うる ひさぎ
清き川原に 千鳥しば鳴く
—— 山部赤人 (万葉集九二五)

植物4 キクタニギク (キク科 多年草)



がけ地に自生するキクタニギク (西山)

学名 *Chrysanthemum seticuspe* (f. *boreale*)

本州・九州・四国の一部の府県、朝鮮半島・中国大陸(北部・東北部)に分布。

京都の東山から流れ出る菊溪(菊谷)川の河川敷に自生していたのが和名の由来ですが、現在、東山では野生は確認できません。

晩秋に明るい小さな花を次々と咲かせます。牧野富太郎は「アワコガネギク」の別名を付けました。若葉は清々しい香りがし、食用にも。花から精油をとって香料にしたり、江戸時代には油漬けにして傷薬にしました。

菊溪は江戸期の名所案内に数多く登場。本居宣長が没年に「古の人に契りを結びみん 住みける跡ときくの谷水」と読むなど、全国から多くの文人が訪れました。

環境省レッドリスト: 準絶滅危惧 (NT)

京都府レッドリスト: 絶滅危惧種

トピック 広義キク属のモデル生物 広島大学等による国家プロジェクト「NBRP 広義キク属」が進展。純系化されたモデル系統がゲノム解析され、キクタニギクは広義キク属のモデル生物に位置付けられました。

植物5 アヤメ

(アヤメ科 多年草)

学名 *Iris sanguinea*



「いづれあやめかかきつばた」と言われるほど、美しい花を咲かせます。花が似る近縁(同属)のカキツバタ、ハナショウブは水生なのに対し、アヤメは陸生です。また花の黄と紫の文目(あやめ)模様でも見分けられます。

日本(北海道、本州、四国、九州)のほか、朝鮮半島, 中国大陸東北部, シベリア東部に分布します。

京都府内ではもともと自生のものは少ないとされてきましたが、近年シカの被害を受けてさらに減りつつあります。府レッドデータブックでは「準絶滅危惧種」(2002)から、「絶滅危惧種」(2015)にランクアップしています。

環境省レッドデータブック
京都府レッドデータブック

記載なし
絶滅危惧種



アヤメは、草丈30～40cmと、近縁のハナショウブなどに比べて背丈は低く、葉が細身で真っ直ぐ伸びます。

花期は5～6月。原種の花色は紫で、爪部(外花被片の基部)は、黄色地に紫色の細い脈が文目(虎斑)の模様をつくります。栽培品種もいくつかあります。

和歌では「花あやめ」とも言います。漢字では「菖蒲」と書き、古い文献ではハナショウブやサトイモ科ショウブとの区別がつかないこともあります。

平安の昔から、端午の節句に都の家などで行われていた、軒に菖蒲を挿す「菖蒲葺く(あやめふく)」の風習は、ショウブのことです。



冷泉家に伝わる白花の品種

近縁種ヒオウギアヤメ (*Iris setosa*)

花期は6～8月、花は紫～青色で、名は花がアヤメに似て、葉がヒオウギに似ることから。アヤメ、ヒオウギとは異なり湿地のみに自生。



植物6 ワレモコウ (バラ科 多年草)



学名 *Sanguisorba officinalis*

秋に紅紫色の穂状の小さな花をつけます。草丈は70cm~100cmほどで、時に2m近くなるものもあります。葉は楕円形で縁に鋸歯があります。

東アジア、シベリア、欧州に広く分布します。やや湿った丘陵、水田など農地まわりの里草地などに自生します。京都周辺では、北山、西山に点在していましたが、近年、見かけることが減りました。

環境省レッドデータブック 記載なし
京都府レッドデータブック 記載なし

和名の由来と生活文化

諸説あります。茎や葉にかすかな香りがあるので、「日本産の木香」の意味(和木香、吾木香)から、「吾も嗅ぐ」から……など。

漢字では「割木瓜」「吾亦紅」などとも書かれます。このうち「吾亦紅」の表記は比較的新しく、花が自ら「吾もまた紅なり」と言ったから、という昭和初期の小説のタイトルです。

わびさびを感じさせる地味な姿や色合いから、茶花、生け花、盆花によく使われます。また、ドライフラワーにして、クラフトの材料としても楽しめます。

有用植物としてのワレモコウ

- ・**生薬** 根茎を天日乾燥させたものは、生薬「地榆」(チユ、ジユ)となり、吐血、下痢、やけどなどに
- ・**医薬部外品** ワレモコウエキスが、薬用せっけん、育毛剤、薬用はみがき類、浴用剤などに
- ・**食用** 春の若い葉は、湯がいて食用にもされました。



『源氏物語』にも登場 (風流な趣味として)

第42帖「匂宮」……老を忘るる菊に、おとろへゆく藤袴、ものげなき(=さほど見栄えしない)**われもかう**などはいとすさまじき霜枯れのころほひまで思し棄てず……(「われもかう」の植物名は文献では『源氏物語』が初出。)

近縁種

日本にはカライトソウ、シロバナトウチソウなど8種と変種が自生。品種改良もされ、矮性のヒメワレモコウなどが流通しています。府内では**コバナワレモコウ**が**絶滅寸前種**になっています。



ヤクシマワレモコウ

ご案内

和の花など緑に関するご相談

(公財)京都市都市緑化協会では、緑に関するご相談を受け付けています(無料)。KESエコロジカルネットワークで取り扱う「和の花」の育て方に関するご相談がありましたら、お気軽にご相談ください。

■育成の仕方について

花とみどりの相談所(梅小路公園内) 相談員 植村／西原

水曜日・土曜日 10～12時、13時～16時(年末年始をのぞく。)

TEL 075-561-1980(相談所直通)

上記の時間外 075-561-1350 KESエコロジカルネットワーク担当

■保全・活用、緑のボランティア活動などについて

緑のまちづくり支援担当

月～土曜日 9～12時、13時～17時(年末年始をのぞく。)

TEL 075- 352-2535 /または 561-1350

(公財)京都市都市緑化協会